

FC 町田ゼルビアに関する考察～町田市に Jリーグチームは誕生するのか

A study of the FC Machida Zelvia ～Is the J League team born in the Machida

1K05B233

山中 裕太郎

指導教員

主査 宮内孝知先生

副査 武藤泰明先生

1 本研究の動機・目的・方法

常日頃から町田駅を利用して、「町田市は FC町田ゼルビアを応援しています」というタペストリーが町のいたるところに提出されていることから FC町田ゼルビアの存在を知り、同時に、Jリーグ入りを目指していることも知った。小学生の頃に少年サッカーをやっていた筆者にとって町田はサッカーのイメージが強く、町田ならば本当にJリーグチームが出来るのではないかと思ったことが本研究の動機であり、FC町田ゼルビアがJリーグに参入出来るかどうかを考察することが本研究の目的である。

本研究は文献研究と株式会社ゼルビアへのインタビューにより行った。

2 各章の要約

第1章では、FC町田ゼルビアの目指しているJリーグと2008年度FC町田ゼルビアの参戦していた地域リーグについて概観した。地域リーグとは、JFLを3部と見立てたときの4部に相当するリーグであり、日本の地域リーグのチーム数は現在73、そのうちの昇格枠は1.5、倍率は48.6であり、世界的にも類を見ない過酷な大会である。J2のチームを増やすという流れにのって、多額の資金を投じ、本格的にJを目指すチームと、アマチュアのみでいようとするチーム、地域リーグはプロ・アマ混在の状態である。選手・スタッフへの給料未払いなどにより、消滅していくチームもある。

第2章では、町田市の風土、サッカー事情、そしてFC町田ゼルビアの歴史について調べ、クラブの現状と課題を考察した。町田市のJリーガー

輩出数は清水市に次ぐ多さであり、町田はサッカーの街であるが、トップチーム(プロ)が無いがために中学、高校と年代が上がると、レベルの高い子供達が町田から他地域の強豪チームへと流れてしまっている現状がある。FC町田ゼルビアは2008年度の地域決勝で優勝し、来季はJFLに参戦する。早ければ2010年のJリーグ入りの可能性もある。現在、2009年1月のJリーグ準加盟の申請に向けて準備をしているが、FC町田ゼルビアの課題は、「スタジアム」「資金」「観客動員数」である。これらの課題をクリアするために必要な活動は、1さらなる地域活動を行い、市の支援に応えること、2寄付を募り期待するだけでなく、クラブの価値を創造し、企業からの投資と積極的に交換していくこと、3スポーツ観戦者の観戦動機を理解し、FC町田ゼルビアの高い認知度を観客動員数の増加につなげることである。これらの活動によって行政、企業、市民の協力を得る必要がある。

第3章では、ファジアーノ岡山と浦和レッズについて調べ、FC町田ゼルビアとの比較を行った。ファジアーノ岡山は今季JFLに初参戦し、最短の1年でJ2に昇格した。Jリーグ入会条件である平均観客動員数3000人を達成するために、ファジアーノ岡山は小学生以下の観戦が無料になる夢パスというチケットで観客数を伸ばした。ファジアーノ岡山はJリーグ参入を果たしたが、J2で戦うための資金が問題となっている。ファジアーノ岡山と比較した結果、FC町田ゼルビアはJ2昇格が当面の目標ではあるが、J2に昇格することだけを目指すのではなく、JFLに所属している内にJ2

を戦えるだけの運営の準備をする必要があることを示した。

浦和レッズとの比較では、FC町田ゼルビアも浦和レッズも自身のチームのためではなく地域全体のために社会貢献することを理念にあげている点や、市民のサッカーニーズが高く、クラブが市民に受け入れられる土壌が出来ているという共通点があり、FC町田ゼルビアが浦和レッズ同様に人気チームとなる可能性を示した。さらに、Jリーグに昇格するだけではなく、Jリーグで成功するためには、戦っているリーグなど状況は違うものの、浦和レッズのように事業基盤の強化を考えた中長

期的な戦略を考えていく必要があることを明らかにした。

第4章では、本論文のまとめを行った。町田市初のプロ球団として、FC町田ゼルビアはJリーグ入りが可能であり、町田がサッカーの街であることから、第二の浦和レッズとして町田市民に愛されるクラブになると考えられる。だが、JFLに所属している内に、Jリーグに入ってから安定した運営が出来る準備をする必要があり、最短の2010年にJリーグ入りするのではなく、当初の目標通り2011年のJリーグ入りを目指すべきであると結論付けた。